



HP「辻よし子と歩む会」で検索



「辻よし子と歩む会」

☎ 190-0154

あきる野市高尾 182-1 佐橋方

電話 & FAX : 042-596-4569

e-mail : kusasigi@nifty.com

共同代表 : 柏倉倫子・青木真知子

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず！

市長への緊急質問を傍聴して

市長の不信任決議が出される前、各議員が市長に緊急質問をすると聞き、議会へ傍聴に出かけた。市議会を無視して強引に物事を進める市長がどのような主張をするのか、まずは聞いてみたいと思ったのだ。

「この点だけでもはっきり答えてほしい」と何度も訴える議員の質問に答えず同じフレーズを繰り返し、途中眠っているような市長の反応に、周囲が見かねて体調不良ということで休憩、その後質問者を残して当日の議会は終了となった。

自分が質問に答えられていないということさえ感じていないような市長の態度を目の当たりにして、驚き呆れたというのが傍聴しての実感だった。

その後、21人の議員の内、20人の賛成で不信任が可決され、市長はそれに納得せず解散を宣言、昨年選ばれたばかりの21人の議員たちを失職させた。議員はもちろん、その議員を選んだ市民に対しても失礼だとしか言いようがない。自分の不信任を市民に問う市長選挙ならともかく、市議会を解散して自分は居座りを決めた市長の責任は重い。

民主主義の議会というのは、それぞれの主張を通して議論が闘わされ、市民から見える形で物事が決められていく、そういうものだと思っている。市長が独断で説明も透明性もなく決めてしまう、そんなことが許されていいわけがない。

(A・M 小川東在住)

市長不信任に思う

去る6月16日、村木あきる野市長に不信任が突き付けられ、賛成20、反対1という圧倒的大差で可決成立。この間、不信任に至るまで何度となく議事を傍聴してきました。そこでの村木市長の言動、とにかくルール無視に次ぐルール無視。その都度、答弁とは言っても全くもって答弁になっていない答弁の繰り返し。それどころか問答にすらなっていない、聴いていて何度もイライラ、カリカリのしどろしどろでした。

特別養護老人ホーム建設の件については、議会に諮ることなしに勝手に業者と「密約」を交わしたこと(その後の答弁で一応撤回)、そのこと自体、癒着と思われるでも致し方ない事だと思います。

これ以外にも、明らかに法律違反と思われる事も強引に押し進めようとする等、この間の村木市長の言動はおかしなことばかり。正に市長失格と言わざるを得ないと思うのは、私だけではないと思うのです。

その挙句に、自ら職を辞するのではなく、議会解散という暴挙に出たわけです。全くもって呆れ果てて何をか言わんやです。

市長不信任という現在の制度では、市長に解散権があることになっていますが、今回のように全議員の95%以上が賛成しているにも拘わらず、市長をそのまま辞めさせることが出来ないというのは、大いに問題ありではないでしょうか。この制度を変えなければいけないのでは、と思っています。

さて、皆さんはどうお考えでしょうか？

(K・K 引田在住)



福祉文教委員会を傍聴しました

「電磁波問題を考えるあきる野の会」で出した陳情審議。陳情の内容は、GIGA スクール構想が進み、一人一台のタブレット、Wi-Fi 完備による子どもたちへの健康被害が懸念される電磁波被曝の低減を求めるものでした。

辻さんは、審議に備え様々な自治体や市民グループ等から情報を集め積極的に発言されていました。他の委員の発言が乏しい中、辻さんは、別の委員会で趣旨採択された案件を例に挙げ、「あれは趣旨採択出来てこれは何故出来ないのですか？何が違うのですか？」と他の委員の方々へ問いました。その問いに誰もまともに答えませんでした。もっともな正論に反論のしようが無いように見えました。

陳情者は、電磁波による健康被害について国や都の見解がまだ出ていないことやエビデンスが確立されていないことを承知の上で陳情していました。そして、電磁波過敏症で悩む当事者として自身の苦しみに加え、同じ症状で悩む人が増えていること、今後更に子ども達にもそのような訴えが増えることを危惧し、せめて学校だけでも環境を改善してほしいと訴えました。にもかかわらず、ある委員から「エビデンスがまだ……」別の委員から「国の見解がまだ……」（だから何もしない）。この言葉に私は虚しい気持ちになりました。

辻さんのように、市民の声を聴き、国や都がどうかではなく、今自分に何が出来るのか、今あきる野市で何が出来るのかということを考えて行動し、国や都に対してこちらから意見を上げていく、そんな市議を選んでいきたいと思いました。

審議の結果、この陳情は不採択。多数決の力で筋の通らない理屈が通ってしまう今の市議会はおかしいと思いました。改善するためにはまず、陳情審議の模様を市民の皆様に見ていただくことが一番良いと私は思いました。（O・T 高尾在住）

網代の田んぼ、あれこれ

私の幼少期、今から 60 年以上前になりますが、ちいさな子供たちにとって「網代の吊橋」はちょっとした遠足気分で行くところでした。今はすっかりしたコンクリートの橋が架かっていますが、当時は木でできた古い吊橋で、静かに歩いて、右に左にゆっくり揺れたものです。

私の青年期、「網代温泉」の名が、世に知られたことがありました。色川大吉教授のグループによって「五日市憲法草案」が発掘された時です。多摩地方の自由民権運動の担い手たちの、密かな討議の場・隠れ宿だったそうです。北村透谷も訪れたことがあります。残念なことに今は廃館になってしまいました。

今も昔も網代で健在なのは、弁天山のツツジと中腹の洞窟、そして麓の田んぼです。登山口にある赤い鳥居の南側、ひっそりした谷間に、「網代の田んぼ」は在ります。七十歳を超えた私は、数年前からそこで稲作の手伝いをしております。苗を植え、育て、収穫・脱穀・精米、最後に自らの胃に収めるまでを、一貫して体験できます。自分の都合の良いときに参加すればよいこと、何より豊かな自然に囲まれた農作業はとても健康的で楽しいものです（農薬は使用しません）。子育ての場としてもおすすめです。（K・Y 館谷在住）



◆◆◆◆◆ 辻よし子・プロフィール ◆◆◆◆◆

1960 年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995 年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぼう会」を中心に、市内の環境保全活動に取り組む。3.11 以後、新たに脱原発の市民活動を始める。2015 年 10 月の補欠選挙で市議に当選。3 期目途中で議会解散により失職。草花で、夫と次男、ネコ 1 匹と暮らす。

無党派
一人会派

